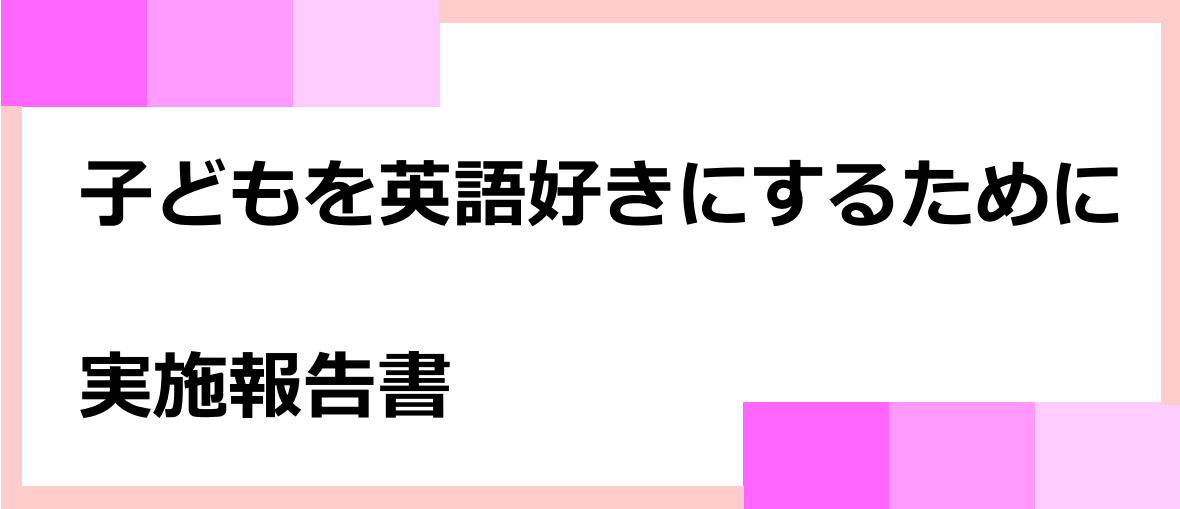


平成 27 年度



# 子どもを英語好きにするために 実施報告書

# 子どもを英語好きにするために

## YS市庭コミュニティー財団助成事業

平成27年3月7日（土）

13：30～15：40 荻窪駅タウンセブンビル 8階

企画 運営：特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク

後援：杉並区教育委員会

YS市庭コミュニティー財団 理事長 東島信明

はじめまして、YS市庭（いちば）財団の東島と申します。

私たちは、知の冒険という事業を行っております、今回はその1つとして助成をさせていただきました。江原先生は、本財団の役員の推薦でご依頼することになり、第1回となりました。

決まった経緯はご推薦なのですが、私たちはこういう人の話を聞いてもらいたい、そして、いらっしゃる方たちが聞いてみたい内容を取り上げたいということで、今回の研修会を企画しました。

もし皆様から、こんな人の話を聞いてみたいというリクエストがあれば、ぜひアンケートで教えてください。

知の冒険をこれからもやっていきますので参考にさせていただきたいと思えます。どうぞ楽しみにしててください。それでは、本日は宜しく願いいたします。

講師：江原美明先生

みなさん、こんにちは。本日は、どうぞよろしく願いいたします。今日は、財団の役員の方からのご推薦で来ました。実は、古くからの友人でもあるんです。英語の教員として、ずっとやってきましたので、今回のように英語に興味がある人がたくさん集まったのは嬉しいです。さすが、杉並区ですね。

## 講師

江原 美明先生

神奈川県立国際言語文化アカデミア教授

NHK 語学講座「リトルチャロシリーズ」の講師 としてもおなじみ。

日頃は英語学習法の研究や、英語教員研修などを手がけられています。



## 1 はじめに

## (1) 英語好きのキッカケ

まず、私の生い立ちについて少しお話させていただきます。私の生まれは横須賀ですが、横須賀駅の近くに、海軍士官が集まってパーティーを開く社交場がありました。今は、ホテルと劇場になっています。これが当時EMクラブと呼ばれた建物の写真で、渡辺貞夫などジャズの有名人も育っていました。これは、70年代の私の写真です。小学校3～4年生頃の写真です。当時日本人の先生と米軍の上級士官の奥さまが英会話を教えていらしたので通っていました。自分から行きたいと言ったそうです。1回500円、当時としては高価だったですね。遊んでばかりで勉強は覚えてはいませんが、印象に残っている出来事があります。テキストの絵を見ながら、対応する英語をリピートしていくのですが、「夜」の絵の下に a night と印刷されているのを見て、日本人の先生が慌てて「aを消して！」と言ったのです。子供は、こういう変なことを覚えているんですね。おかげで英語の冠詞には今も興味があります。

さて、なぜ私の生い立ちからお話したかと申しますと、英語教育について語る方はたくさんおられるのですが、そういう方々の主張は、その人の生い立ちに大きく影響されているからです。もし、私が国際ビジネスマンで、ビジネスの現場で英語を使いながら学んだ人間なら、今の学校教育には批判的な意見を持つかもしれませんし、私が帰国子女だったら、また別の考えを持っていたでしょう。実際の私は、日本で生まれ育った英語の教師です。ですから今日の話も私の生い立ちが影響しているのです。小、中学校は日本の公立学校に通い、大学に入り初めて英語で英語の授業を体験しました。それまで文法訳読式で学んできたので、使える英語への道のりの長いこと。卒業後、高校教師になり、夜間の大学院にも通いました。そして「大人の基礎英語」の松本茂先生に出会い、リトルチャロに引き入れてくださいました。人の出会いで人生は大きく変わるものです。

チャロの現場では、プロの人はみんな相当な努力家であることを学びました。

よっしーはスタジオロケ直前まで練習していましたし、KENCHIさんは、礼儀正しい青年でした。シェリーさんにはいろいろと気をつけていただきましたし、NHKの方々も皆その道の専門家です。小学生の頃、漢字が苦手でした。小テストでひどい点だった私ですが、今は英語の教員になっています。ヘレンケラーも言っていました。1つの道が閉ざされると、別の道が開けると。そういうわけで、今はこうして英語に関係した仕事をしています。

## (2) STOP! 強制!

今日のタイトルは「子供を英語好きにするために」ですが、本当は、理科好きでも、音楽好きでも、体育好き、国語好きでもいいんじゃないでしょうか。英語活動をしている方、保護者、教員にしてみれば、英語は楽しいという実体験があるので、子どもたちにもそう感じてほしい。ただここでやってはいけないのが、好きになることへの強制です。強制ではなく、親として、指導者として、英語を学べる環境を整えることが大事だと思うのです。そこで今日は、「英語を学ぶ、あるいは教える上で知っておくとよいことは何だろう?」という視点からタイトルに迫ってみたいと思います。

途中みなさんには話し合っていただいたりご意見をうかがったりしますので、まずウォームアップをしましょう。童心にもどるためのゲームです。(ここで音を聞いて違う音が聞こえたら反応するゲーム)。

小学校3年生くらいまでは、こうした遊びや音声を通して英語に触れるのが良いと思っています。音はことばの習得にとり最も大切な要素ですから。



## 2 なぜ嫌いになるの?

### (1) 英語嫌いの原因

では、「英語を学ぶ、あるいは教える上で知っておくとよいこと」のひとつめとして、どうして英語が嫌いになるか、を考えてみましょう。Think-Pair-Share、つまり「考えて」、「ペアになって話し合って」、「シェアして」という活動をしたと思います。2、3分差し上げますので、みなさんご自身のことを思い出

して、英語が嫌いになった原因を30秒考えてください。いかがでしょうか。ご意見を伺わせてください。

参加者：「文法がニガテで、受験が大変でした。他の国に行って、通訳が自分の代わりに話すのが悔しくて、それ以来、覚えていません。」

参加者：「文法から入るので、いくら頑張っても、会話ができませんでした。This is a pen から入っていた。」

参加者：「英語で「自転車」は、bicycle。でも、発音はバイセコーですよ。どうみても、バイセコーには見えないのに。単語を覚えるのが大変だった。」

講師：江原美明先生

ありがとうございました。文法が英語嫌いの原因という意見は多いようですね。単語も覚えるのに苦労します。bicycleのように、綴りと発音が違う単語は英語にはよくありますよね。子供の時に、ABCを初めて教わったとき、「ABCのAは日本語のアイウエオのどれ？」なんて聞いて、親を困らせていました。英語は日本語と違い、ABCが書けてもすぐに単語が書けるわけではないという特徴があります。

高校生およそ3000人を対象にしたベネッセ教育総合研究所のアンケート(2014)(※注1)によると、「英語を苦手と感じるようになった時期」について、中学入学後、それから高校入学後が嫌いになる時期として顕著なようです。中学の場合には、嫌いになった時期が中2、中3と答えた生徒もいるのですが、高校の場合には圧倒的に高1が多い。高1で英語が好きか嫌いかに分かれてしまうような感じですね。では、いったい、中1、高1になって、何かが起きているか。アンケートでは、「文法」「書くこと」「聞き取り」「単語の暗記テストで点がとれない」などがあげられています。

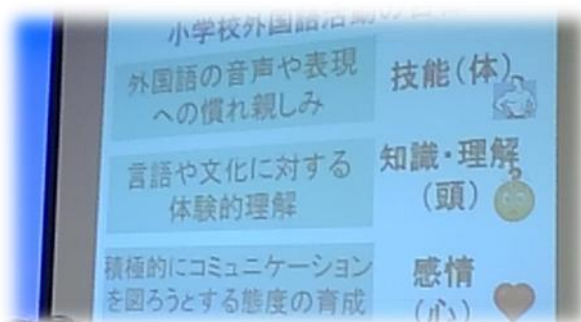
大阪教育大学の加賀田先生は、大学生に行った調査で、英語が嫌いになった理由として、「文法が難しくなったから」「自分の努力不足」「暗記中心の勉強がイヤ」の他に、「担当教師とうまくいかなかった」という回答があったと述べておられます(※注2)。先生との人間関係というのも大きいですよ。これらの結果を大雑把に分けると、子供が英語嫌いになる原因として、「発音できない」、「わからない」、「先生キライ」という要素があるのではないかと思うのです。ただ、3つめ目の先生の好き嫌いについては、人により意見が分かれるかもしれませんね。

私は普段先生方の研修の仕事をしているので、3つめとして「先生」という要素をあげたのですが、逆に考えるなら、「発音できる」「わかる、おぼえられる」「先生好き」という環境が整えば、少なくとも英語嫌いは防げるかもしれない

いのです。

「発音できる」というのは技能です。ステップバイステップで慣れていけば、ある程度は出来てきますね。「わかる、おぼえられる」というのは、認知的な側面です。また「先生好き」というのは感情や気持ちに関することです。何を申し上げたいかといいますと、「技能」、「知識・理解」、「感情」という3つの要素が英語の学習、言葉を学ぶ際にとっても大切だということなのです。こうした要素を意識することで、英語嫌いをつくりたくないような工夫が私たちにできるのではないかと思います。

学習指導要領では、小学校外国語活動の目標として、「外国の音声や表現への慣れ親しみ」「言葉や文化に対する体験的理解」「積極的にコミュニケーションを取る態度育成」の3つを大きな柱としています。今申し上げた「技能」、「知識・理解」、



「感情」の3つの要素が含まれています。それぞれ、「体」「頭」「心」に関係しています。よく見てみると、小学校外国語活動は、「英語が話せるようになること」を目標としているわけではないことがわかります。ですから、「英語活動をやっているのにいつまでも英語が話せるようにならない」という誤解に基づく考えを持たないことが大切です。

## (2) 違いに気づくこと

小学校外国語活動では、「知識・理解」つまり「頭」を使う際、体験的な学びによって言葉や文化について気付くということを重視しています。では、言葉について例えばどんなことに気付くか考えてみましょう。ハンバーガー、スパゲッティ、バナナ、バニラアイス、この写真を見て、何に気付くでしょうか。ちょっと、グループで話し合ってください。如何でしょうか？

参加者：「日本の食べ物じゃないですよね」

参加者：「ぜんぶ、カタカナで書かれています」

参加者：「日本語のアクセントと、英語ではアクセントが違う？」



講師：江原美明先生

そうですね。外国から来たことばは、日本語ではカタカナで書かれます。便利ですよ。さて、それぞれの絵の英語での読み方をみると、アクセントが日本語読みとは違います。例えば、ハンバーガーは、「ハン」を強めに発音します。バニラのアクセントは、「ニ」に強勢が付きます。海外で、「バニラ、バニラ！」と「バ」を強く発音してアイスクリームをオーダーしてもバニラアイスクリームは出てこない確率が高いですね。バを[v]の発音で言うとか、そういうレベルではなく、強勢の位置の方が大事なのです。日本人発音でも良いので、「ニ」に強勢を置くことがポイントですね。

発音は、最終的にネイティブのようになる必要はなくて、ある程度の日本人発音でもよいという考え方には賛成ですが、小学生の時は、きちんとした発音に触れて欲しいと思っています。英語のネイティブスピーカーでさえ、言葉や発音を正してよい仕事を得るために、トレーナーに発音矯正をしてもらうケースもあるくらいですから。

では、次の気付きの例です。Happy New Year!と、「あけましておめでとう！」では、何が違うと思いますか？

参加者「語順が違うのでは？おめでとうの部分が happy ですから。日本語とは順番が逆のように思えます。」

講師：江原美明先生

なるほど。確かに日本語と英語では語順が違いますよね。今回の2つの文の違いは、実はこの表現が使えるタイミングです。学生の頃ですが、横須賀の商店街を大晦日の晩に歩いていると、何人もの米兵と思しき若者に、Happy New Year!と声をかけられたのです。まだ、年も明けてないのにと思いましたが、Happy New Year!は、I wish you a happy new year. (よい年となりますように)という意味なんですね。I wish you a merry Christmas and a happy new year. ってありますよね。日本だったら、大みそかに「あけましておめでとう」と言ったら、笑われますよね。無理やり英語を覚えさせるのではなく、こうした言葉や文化への感受性や興味を育むというのが特に小学校段階では大事ではないかと思います。

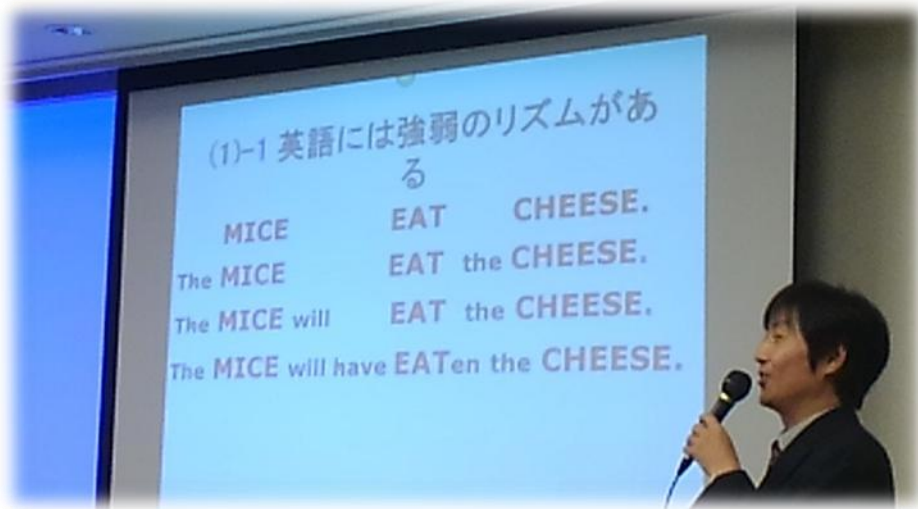
### 3 英語を学ぶ上でのポイント

さて、「英語を学ぶ、あるいは教える上で知っておくとよいこと」のうち、英語嫌いの原因や小学校外国語活動の目標、気付きの大切さを見てきましたが、残りの時間で、小学校から大人までの長いスパンで考えたときの英語を学ぶ上

での重要ポイント、特に私たち日本人が苦手とする点についてお話ししたいと思います。

## (1) 音

まず英語では（どの言葉でもそうですか）音が非常に大切です。次の文を読んでみましょうか。MICE EAT CHEESE. 下になるほど、単語の数が増えています。日本人なら、どう発音するでしょう。きっと、文が長ければ、その分だけ長く読むと思います。一方、英語には強弱のリズムがあり、ストレス（強勢）がおかれる単語の数が同じなら、読む時間は同じになります。つまり、この例だと、MICE, EAT, CHEESE の3つだけが強く発音されるので、どの文も読むのにかかる時間は同じになります。the や will など入っても、文全体を読む時間は最初の MICE EAT CHEESE. と変わりません。



多くの日本人英語学習者の目標のひとつは字幕なしで映画を見ることなのですが、実は、英語教師の私でも、かなり難しいです。難しいのには、いくつか理由があるのですが、そのひとつは、英語ではこの強弱のリズムと関連して音がつながって聞こえることです。これからお見せするのは、the King of Queens（※注3）というアメリカのコメディですが、例えば Then I will see you... が Then I' ll see you... に、I am going to... が I' m gonna ... になったりすることに耳が慣れていないと聞き取りが難しくなります。予備知識として知っておくべき表現や文化的な知識もあります。例えば、Hon は、Honey の略だとか、Have you lost your mind? は、「おかしくなったのか?」「本気か?」みたいな表現だとか、またお父さんがイタリア系の移民なので、domino を「ミ」にアクセントを置いて標準とは違う発音をしているとか。英語の音やそのスピードに慣れ、表現や文化的なことがわからないと、字幕なしで映画を見るのは



すごく難しいのです。

## (2) 定型表現

次に重要なのは定型表現です。これはある場面や状況でよく使われる表現ですが、こうした表現を覚えていると、耳からの英語を聞き取れますし、自分でも相手にわかるように話しができるようになります。自信を持って使える表現の塊を増やすことが、大切です。小学生のころは、音を中心に英語に触れ、少しずつ自然に定型表現にも慣れていく、ということが長い目でみて大事になってきます。授業でよく使われる教室英語に、Let's get started. Listen carefully. What's this? Do you want a hint? Good job. などがありますが、子供たちは自分たちが頻繁に耳にする表現を自然に身に付ける能力を持っています。教室という文脈の中で英語に触れることで、結果的にいくつかの表現は自然に身に付くのです。

## (3) 場面や気持ち

外国語の学習では、表現が場面や気持ちと結びついて初めて使えるようになります。とっさに英語が出てこない、というのはよく経験することですが、ある場面で特定の英語を使ったり、ある気持ちになったときその気持ちを表すのに英語を使ったりする経験を繰り返すと、少しずつ英語がとっさに出てくるようになります。でも実はこれは日本人の英語教師にとっても弱点です。現実の場面と英語の知識が結びついていないと、なかなか、使えるようにならない。英語の教科書や参考書で使われている文法も、実際の場面と結びつかないまま教えられたり学ばれたりすることが多いので、使えない（発信に使えない）状態になってしまうのだと思います。

ここで、リトル・チャロ4（※注4）のワンシーンを見てみましょう。お父さんのイチローがケガをしてしまうシーンですが、リトル・チャロのテキストでは、いろいろな場面で気持ちを表す英語表現がたくさん取り上げられています。これは、ある場面である気持ちになったときに英語が出てくるような学習環境を作りたい、という願いからでした。こうしたフレーズを実際に自分の置かれた状況の中で使うことで、次第に考えなくても、自然とフレーズがでてくるようになるのです。どんな状況で、どう話すかというレパートリーを英語母語話者はたくさん持っています。この場面なら、こう話す。この状況なら、こう話す、のように頭に入っているのです。詰まらずに話せるのです。

言葉は基本的に、気持ちを伝えるものなのではないかと思います。例えば「ぎ

「ぐっくり腰になった」というのは I threw out my back. と言いますが、これは単に情報を相手に伝達している場合もあるでしょうが、「腰が痛くて大変だったんだ。優しくしてほしいなあ。」というメッセージが込められているかもしれません。「ぐっくり腰」は、私自身も、言いたくてチャロの関係で知り合ったオーエン・真樹さんに教わった表現です。覚えてから、さっそく友人に email で使ってみると、「大丈夫？」と心配してくれました。そんなときはやはり嬉しくなるものです。

#### 4 まとめ：英語の学びにピリオドはない

さて、今日は、英語嫌いの原因や長い目で見て英語を学ぶ上でのポイントを見てきました。こうした点に注意を払うことが、よりよい授業や保護者としての接し方にも役立つのではないかと思うのです。

小学校外国語活動のテキスト Hi, friends! 2 の最後の章には、What do you want to be? と、将来なりたいものについての活動が扱われています。テキストには teacher, singer, farmer, doctor などが例示されていますが、これらのリストに子供たちがなりたい職業がない場合はどうしたらよいでしょうか。ここから、むりやり選ばせるのは良くないですね。昔と違って、今はいろいろな職業ができています。例えば、フードテイスターという食べ物の食感や香りを判断する専門家もありますし、ゲームデザイナーとゲームを作る職業もあります。ゲームそのもので食べている人だっていますよね。もし、これらの仕事を英語で言えなければ、日本語で言っても良いと思います。そしてあとから ALT などと協力して対応する英語を教えてあげればよいと思います。

教える側、保護者としては、彼らの想像性を限定するよりも、大人になったらどんな仕事につくんだろう。どんな新しい仕事ができるんだろうという考え方の方が大事だと思います。子供に英語を教え込むより、想像性を伸ばしてあげてください。

子供達が、何をして、どう考え、どう感じるかを大切にする。Do, think, and feel. これは、さきほども申し上げた3つの要素。技能(体)、知識と理解(頭)、感情(心)にも通じますよね。こうした分析的な視点が大事です。小学校外国語活動に携わる保護者や教育者は、英語に触れる環境を作る仕事を担っています。そして、できるように支援してあげること、気づきや自由な発想を尊重してあげること、人間関係作りに配慮することが大切です。人間は、「自分の能力を実感したい」「行動を自ら起



こしたい」「他者と関わりたい」という欲求が満たされると、ヤル気がでてくるそうです。学ぶということは、自分が新しい自分になることです。A New you ですね。英語の学習にはピリオドはありません。冒険をし、発見して、最後に楽しい思い出とともに学ぶのが外国語学習だと感じています。

本日は、お招きいただき、ありがとうございました。

## 質問タイム

参加者：「娘は帰国子女で、学校でならうローマ字に大変ショックを受けていました。覚えるのも大変で苦労しています。パソコンで日本語入力する際に必要だよと言っていますが、娘にとってはどうなのでしょう？」

講師：江原美明先生

確かに大変でしょうね。1つ言えることは、お父さんがおっしゃるように、「パソコンで日本語入力する際に必要だよ」と助言してあげたことは正しいと思います。ローマ字は日本語、英語は英語、と分けることで頭も整理できるでしょう。ただせつかく英語で apple と書けるのに appuru と繰り返し練習させられてしまうとしたら気の毒ですね。パソコンを打つために必要と割り切ってしまうのも良い方法ですが、もし、ローマ字を何度も繰り返し練習することについてお嬢さんがつらい思いをしているようなら、先生に相談するのも良いでしょう。

参加者：「英語は何歳から覚えたら良いのでしょうか？」

講師：江原美明先生

これも良く聞かれる質問です。私の娘の場合ですと、幼稚園の頃ビデオを見たり多少英会話に通ったりして英語に触れました。小学校で塾に行き始めて知らない単語が出てきたときには嫌いになったが、そのうちに慣れたと言っています。今娘は大学生になっていますが、英語専攻ではありません。英語の音については、早く触れさせて損はないと思います。もちろん強制はいけません。歌や音楽で覚える方法もありますが、音楽のリズムと通常の英語の会話のリズムは異なりますので、賛否両論あります。英語を好きになるキッカケとして、音楽があるのは良いと思います。

参加者：「大人を英語好きにするには、どうしたらよいのでしょうか？小学校の教員ですが同僚の教員にももっと英語活動に積極的に参加してもらいたいのですが。」

講師：江原美明先生

先生でいらっしゃるのですね。お疲れさまです。同僚の先生が、下手な発音を子供に教えたくない、控えていらっしゃるのも理解できます。私の場合もそうですが、人を通して英語が好きになるということがあります。大人は恥をかきたくない、イヤなことはしたくないものです。ですから、キッカケ作りが大事でしょう。お菓子がでる、旅行に行くなど、良い思い出と英語を結びつけてはどうでしょう。仲間やA L Tとちょっとしたお茶会を開くとか。もし、英語を教える方法がわからなくて困っているのであれば、具体的にこれと、これを教えたら良いのではとアドバイスするのも大切だと思います。

参加者：「学校ではきれいな発音の先生に習っています。私は米国での滞在経験が長く英語を話せるのですが、訛りが移らないか心配しています。」

講師：江原美明先生

「学校でならう英語、お母さんが話す英語の両方に触れさせることが良いと思います。片方だけを強制しないで、親子で英語でのコミュニケーションができればよいことだと思いますよ。ある時、お母さんの発音の違いに気づいてくるでしょう。そんな時は、理由を教えてあげれば、会話のタネにもなります。気づきを大事に。」

参加者：「息子が英語学校に通い、英語劇をやったりしているのですが、続けるべきか悩んでいます。」

講師：江原美明先生

お子さんの性格にも依ると思います。私の娘はシャイなので、英語については塾に行ってから、会話専門の塾には行かなくなりました。性格と共に、お子さんの生活との兼ね合いもありますよね。本人の体力や趣向もあります。好きなら続きますし、イヤなら辞めたいと言うと思います。そんな時は、ぜひ話し合ってください。親子で話しあうコミュニケーションが大事です。」

参加者：「大人から見て、遊びに見えるような幼児向け英語教室はどうですか？」

講師：江原美明先生

子供の時に、英語に触れさせるのは良いことですが、焦る必要はないと思います。お子さんにとって、良いキッカケにしてあげる方が大事です。ママが興味をもてば、親子で一緒に経験できるのはステキなことですよ。親が自分のしていることをどう思っているかを、子供は敏感に感じます。親が「いいことだ

から続けたら！」というスタンスをとってれば、子供にとっては良い方向に繋がります。逆に、「そんなことしても役に立たない！」と否定的なスタンスだとマイナスに働きますね。大人から見ると、遊びに見えるかもしれないけど、子供が楽しんでいけば、褒めてあげる。良いキッカケにしてあげることで、本人の人間として成長にプラスになりますし、長い目で見ればアイデンティティの形成につながります。

特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長  
生重幸恵

本日は、江原先生、誠にありがとうございました。これだけの大勢の方が集まるのは、杉並の英語教育の熱さ、レベルの高さと感じています。中央教育審議会の委員をしておりますが、今後の英語教育は、中学年から音声に慣れ親しませ、高学年では意志を伝えられるまでの会話力を目指しています。杉並区は先進的な地域として評価も高く、英語教育のレベルも高いです。公立の英語も優れていると全国的にも有名です。本日集まってくださった方の熱意や質問を見ると、これからも、みんなで子供達の英語を学ぶ環境作りを整えていけたらと思っています。アンケートに次回講師のリクエストをご記入ください。江原先生のお名前を書かれたら、またいらっしゃってくださるかもしれません。重ねて、この度はご講演、貴重なお話をありがとうございました。



注1：ベネッセ教育総合研究所 中高生の英語学習に関する実態調査 2014  
<http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4356>

注2：『英語授業改善への提言』（教育出版）2012年

注3：以下から情報、スクリプトを取得可能

<https://www.youtube.com/watch?v=RW7iB2iOTKw>

[http://www.springfieldspringfield.co.uk/view\\_episode\\_scripts.php?tv-show=the-king-of-queens&episode=s01e07](http://www.springfieldspringfield.co.uk/view_episode_scripts.php?tv-show=the-king-of-queens&episode=s01e07)

注4： リトル・チャロ4 ゴガクル

[http://gogakuru.com/english/on\\_air/%E3%83%AA%E3%83%88%E3%83%AB%E3%83%B%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%AD%EF%BC%94.html](http://gogakuru.com/english/on_air/%E3%83%AA%E3%83%88%E3%83%AB%E3%83%B%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%AD%EF%BC%94.html)